

2021 年度 秋学期

立教セカンドステージ大学
科目聴講生用

講義内容(シラバス)

- (1) 開講科目一覧表
- (2) 講義内容(シラバス)

2021年度秋学期 開講科目一覧（科目聴講生用）

	科目 コード	科目名	担当者	開講日程		シラバス
エイジング社会の 第1群 教養科目群	OG125	聖書と私	新井 美穂	秋学期	水3	P 1
	OG143	日本思想を名著でたどる	大熊 玄	秋学期	水4	P 2
	OG160	現代美術に親しむ	菊池 敏直	秋学期	水2	P 3
コミュニティデザインと 第2群 ビジネス科目群	OG239	プラチナ社会におけるアクティブシニア論	松田 智生	秋学期	水5	P 4
	OG100	セカンドステージの市民生活とNPO活動	渡辺 豊博	秋学期	水3	P 5
	OG248	SDGsとビジネスロー 	河村 賢治	秋学期	水1	P 6
	OG243	金融論	鉢村 健	秋学期	水2	P 7
セカンドステージ 第3群 設計科目群	OG330	最後まで自分らしく	小谷みどり	秋学期	水5	P 8

科目コード	OG125	科目名	聖書と私	科目群	第1群
担当者	新井 美穂 (アライ ミホ)				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・3時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考		授業支援システム	立教時間		
授業の目標	聖書を学ぶ事を中心にキリスト教に親しむ事を目標にします。聖書は私たちの姿や社会を炙り出します。この時代を生きる者として、自分を見つめ、互いを生かし合い(愛)生かされ合う生き方の源泉を聖書から考えたいと思います。				
授業の内容	本講義は講義中心の「聖書」を通しての入門講座です。少し知的に、少し心に潤いの時間です。前半は旧約聖書から新約聖書に至るイスラエル史を概観し、イスラエルの神とメシアを待望する民の関係を見つめ、神と人間について考えます。後半は福音書を中心に、イエス・キリストの教えと生涯が投げかけてくる問いを探り、自分や社会を見つめ、聖書のメッセージに耳を傾けたいと思います。教会暦についても学びます。(内容や形式は必要に応じて微修正を行います)				
授業計画	第1回 9/22 キリスト教に親しむ (明治期のキリスト教の教派を中心に立教の歴史も学ぶ) 第2回 9/29 聖書について 第3回 10/6 イスラエルの歴史—出エジプト 第4回 10/13 イスラエルの歴史—十戒 第5回 10/27 イスラエルの歴史—王国の成立とその分裂 第6回 11/10 イスラエルの歴史—預言者の働き 第7回 11/17 イスラエルの歴史—バビロン捕囚と帰還 第8回 11/24 イスラエルの歴史—ヘレニズム世界の支配の下で 第9回 12/1 イエス・キリストについて—イエスと律法 第10回 12/8 イエス・キリストについて—誕生物語その1 第11回 12/15 イエス・キリストについて—誕生物語その2 第12回 12/22 イエス・キリストについて—イエスと福音 第13回 1/12 イエス・キリストについて—受難物語 第14回 1/19 イエス・キリストについて—復活物語				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	お持ちの聖書があればそれで構いません。(必要なものはプリントします) 木田献一、1999、『古代イスラエルの預言者たち』、清水書院。 池澤夏樹、2012、『ぼくたちが聖書について知りたかったこと』、小学館。				
その他 (HP 等)					

科目コード	OG143	科目名	日本思想を名著でたどる	科目群	第1群
担当者	大熊 玄 (オオクマ ゲン)				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・4時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考		授業支援システム	Blackboard		
授業の目標	日本の古代から中世の思想を考える上で欠かせない10の文献を扱い、その内容に直接にふれることで日本思想を学び、考えます。				
授業の内容	この授業は、日本の古代から中世において何が考えられていたのか、文献の内容を現代語訳で理解し、その思想について考える日本思想の入門講座です。受講者は、配布される原文や現代語訳を参考に、講師による各文献の思想の抽出・説明を聞き、思想的な教養を身につけるとともに、単に情報として受け止めるだけでなく、なぜそのように考えられたのか、その文献に込められた「想い」をとらえ、自分なりの思考を紡ぐ、日本「哲学」入門も目指します。				
授業計画	第1回 9/22 ガイダンス、「十七条憲法」 第2回 9/29 『古事記』① 第3回 10/6 『古事記』②、『万葉集』① 第4回 10/13 『万葉集』② 第5回 10/27 『古今和歌集』① 第6回 11/10 『古今和歌集』②、『日本霊異記』① 第7回 11/17 『日本霊異記』②、 第8回 11/24 『方丈記』① 第9回 12/1 『方丈記』②、『選択本願念仏集』① 第10回 12/8 『選択本願念仏集』② 第11回 12/15 『歎異抄』① 第12回 12/22 『歎異抄』②、『正法眼蔵随聞記』① 第13回 1/12 『正法眼蔵随聞記』② 第14回 1/19 『徒然草』 * 扱う文献は進行状況や要望により変更されることがあります。				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	資料は、オンライン授業支援システムにて配布します。				
上記教科書以外の参考図書					
その他 (HP 等)					

科目コード	OG160	科目名	現代美術に親しむ	科目群	第1群
担当者	菊池 敏直 (キクチ トシナオ)				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・2時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考		授業支援システム	立教時間		
授業の目標	美術／アートは、美術館やギャラリーだけでなく日常のどこにもあります。もはや日常そのもの？のスマホだってデザインされたアート。“特別じゃない”美術に私が「近づく、踏込む」ことが目標です。				
授業の内容	即答できない“問い”に接したときの常套句「ワカラナイ」、で即検索。ワカル？それでも「何が、どう、何故」と問いを重ねる、踏込む。美術という問いは、見ている、触っている、感じている、作品が“問いであり答え”です。自分史や20世紀美術を振り返りながら、“美術とワタシの関係”を探りましょう。「本当にうまく質問できたら、もう答えは要らないのですよ。(略)」という小林秀雄の言葉に習って。				
授業計画	第1回 9/22 自分史の中の美術 第2回 9/29 鳥の声 第3回 10/6 作品とモノと表現とワタシ 第4回 10/13 20世紀美術 略説① 第5回 10/27 鳥の声をみる 第6回 11/10 ○▽□ 第7回 11/17 20世紀美術 略説② 第8回 11/24 カンガエナイでつくる 第9回 12/1 嗜好と思考と志向① 第10回 12/8 嗜好と思考と志向② 第11回 12/15 水のカタチと鏡 第12回 12/22 20世紀美術 略説③ 第13回 1/12 天安門とブランデンブルグ門 第14回 1/19 RE 自分史と美術 * テーマが前後することあり				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	暮沢剛巳、2009、『現代美術のキーワード100』、ちくま新書。				
その他 (HP等)					

科目コード	OG239	科目名	プラチナ社会におけるアクティブシニア論	科目群	第2群
担当者	松田 智生 (マツダ トモオ)				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・5時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考		授業支援システム	Blackboard		
授業の目標	活力ある高齢社会を示す「プラチナ社会」において、RSSCのアクティブシニアがいかに社会や多世代と共生して輝くか、大学のアカデミックな視点とビジネスの視点を交えながら、分かりやすくアクティブシニア論を展開する。				
授業の内容	次の授業計画に沿って、アクティブシニア論の基本要素の講義と併せて、国内外の臨場感のある具体的な事例を紹介する。さらに受講生の同士のグループディスカッションと発表の組み合わせ、講義→討議→研究→演習の実践的な活動を展開する。毎回、前回の講義のフィードバックを行い、授業の理解度や進捗状況を把握しながら有効に進める。				
授業計画	<p>第1回 9/22 プラチナ社会総論（授業ガイダンスを含む）</p> <p>第2回 9/29 アクティブシニアと新たな市場</p> <p>第3回 10/6 アクティブシニアと新たな大学</p> <p>第4回 10/13 アクティブシニアとまちづくり</p> <p>第5回 10/27 アクティブシニアの挑戦に学ぶ</p> <p>第6回 11/10 アクティブシニアのコミュニティデビュープラン作成</p> <p>第7回 11/17 アクティブシニアのコミュニティデビューのプラン発表</p> <p>第8回 11/24 海外に学ぶアクティブシニアのライフスタイル</p> <p>第9回 12/1 アクティブシニアと新たな働き方</p> <p>第10回 12/8 アクティブシニアと地方創生</p> <p>第11回 12/15 アクティブシニアと多世代交流</p> <p>第12回 12/22 アクティブシニアの大学連携型コミュニティ①</p> <p>第13回 1/12 アクティブシニアの大学連携型コミュニティ②</p> <p>第14回 1/19 研究のまとめと発表・講評</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	<p>松田智生、2017、『日本版 CCRC がわかる本』、法研、2,500円（税別）。</p> <p>松田智生、2020、『明るい逆参勤交代が日本を変える』、事業構想大学院大学、1,500円（税別）。</p>				
上記教科書以外の参考図書					
その他（HP等）	<p>三菱総合研究所 研究員紹介： 主席研究員 松田智生</p> <p>https://www.mri.co.jp/company/staff/0225.html</p>				

科目コード	0G100	科目名	セカンドステージの市民生活とNPO活動	科目群	第2群
担当者	渡辺 豊博（ワタナベ トヨヒロ）				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・3時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考		授業支援システム	Blackboard		
授業の目標	「今まで蓄積してきた専門的な知識を地域社会で活かしたい、新たな人的交流の場に参加したい」などさらなる発展的な市民生活を過ごしていくための多様なヒントや仲間づくり、社会貢献の場づくりなどを再発見することを目標とする。				
授業の内容	本講座では、セカンドステージにおける社会的な役割や新たな市民生活のあり方、生きがい・やりがいのある場づくりなどを再発見するためのヒントや、多種多様な社会参加のケーススタディに関わる情報提供を行うとともに、日常的な市民生活の中で役立つ市民活動のあり方やNPOの基礎知識、具体的な活動を現場で進めるための実践的なノウハウ、英国や米国の先進的なNPOの手法や社会的企業、地域ビジネス創業の方法などについて学ぶ。				
授業計画	第1回 9/22 講義のガイダンス、自己紹介、学びたいポイントの確認など 第2回 9/29 市民生活の現状と課題、今後のセカンドステージを考える 第3回 10/6 英国や米国などの市民生活の実態と先進的な事例紹介 第4回 10/13 国内での市民生活の先進的な事例紹介 第5回 10/27 NPO・NPO法の基礎知識を学ぶ 第6回 11/10 NPO活動・市民活動の実態と課題、今後の方向性 第7回 11/17 グラウンドワーク三島の実践的なノウハウを学ぶ 第8回 11/24 グラウンドワーク三島の地域協働による活動事例を学ぶ 第9回 12/1 英国グラウンドワークのパートナーシップの手法を学ぶ 第10回 12/8 社会的企業による新たなビジネススタイルとノウハウを学ぶ 第11回 12/15 NPOによる地域ビジネス創業へのノウハウと取組みを学ぶ 第12回 12/22 中高年が中心となった市民活動やビジネスなどの事例紹介 第13回 1/12 新たな市民生活の多様なあり方を考える、全体的質疑応答 第14回 1/19 講義のまとめ				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
講義中に直接使用する教科書	渡辺豊博、2016、『先生、NPOって儲かりますか？』、春風社、1,389円(税別)				
上記教科書以外の参考図書	渡辺豊博、2005、『清流の街がよみがえった』、中央法規出版株式会社、2,000円(税別)。渡辺豊博、2013、『失敗しないNPO』、春風社、1,500円(税別)。渡辺豊博・松下重雄、2010、『英国発 グラウンドワーク』、春風社、1,500円(税別)。				
その他(HP等)	グラウンドワーク三島・ホームページ				

科目コード	OG248	科目名	SDGsとビジネスロー	科目群	第2群
担当者	河村 賢治 (カワムラ ケンジ)				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・1時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考		授業支援システム	立教時間		
授業の目標	国連が定めた持続可能な開発目標 (SDGs) を達成するために、ビジネスローがどのような役割を果たしているのか知ると同時に、自分自身が一市民として何ができるのか考える。				
授業の内容	SDGs を達成するためには、政府や非営利団体などだけでなく、民間企業の力を活用することが大切になります。実際に、多くの企業が事業活動と社会課題解決の両立に向けた取り組みを進めています。また、投資家も環境・社会・ガバナンス (ESG) を考慮した投資を拡大しています。この授業では、こうした企業や投資家の活動を後押しするビジネスローについて学びます (これらの動きに対して懐疑的な見解も取り上げます)。それと同時に、私たち自身が、例えば消費者・投資者・労働者/経営者などとして、何ができるのか考えたいと思います。				
授業計画	<p>第1回 9/22 SDGs と ESG の基本</p> <p>第2回 9/29 ビジネスローの基本</p> <p>第3回 10/6 SDGs ・ ESG に関連するビジネスローの概要</p> <p>第4回 10/13 企業・投資家等による実践例①</p> <p>第5回 10/27 企業・投資家等による実践例②</p> <p>第6回 11/10 株主利益最大化原則をめぐる議論</p> <p>第7回 11/17 受託者責任をめぐる議論</p> <p>第8回 11/24 企業業績・投資収益との関係をめぐる議論</p> <p>第9回 12/1 企業・投資家等による実践例③</p> <p>第10回 12/8 企業・投資家等による実践例④</p> <p>第11回 12/15 海外の最新動向</p> <p>第12回 12/22 資本主義をめぐる議論</p> <p>第13回 1/12 企業・投資家等による実践例⑤</p> <p>第14回 1/19 まとめ</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	特に指定しません。				
上記教科書以外の参考図書	授業で紹介します。				
その他 (HP 等)	立教大学法学部の教員です。専門は会社法と金融商品取引法です。				

科目コード	OG243	科目名	金融論	科目群	第2群
担当者	鉢村 健 (ハチムラ タケシ)				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・4時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考	授業支援システム		Blackboard		
授業の目標	「金融緩和(負債膨張)」の世界的広がりは人類社会に大きな影響を与えています。授業では「金融や経済」の基礎的な枠組みを振り返りながら、現代社会が抱える構造問題の真因を探り、将来の課題を自らの視点で捉え直すことを目標とします。				
授業の内容	本授業は講義中心ですが、理論の紹介や知識の暗記には重きを置いていません。現代社会は、①主権国家②民主主義③グローバル化の同時成立を求めて、国際協調を続けましたが、今や「格差拡大と民主主義の後退」に直面しています。この社会現象は「負債膨張」が導いたものであり、今後も増幅されるでしょう。授業では多様な経験を有する学生の皆さんに金融面から新たな視点を提供して、「現代社会が抱える課題の本質と将来像」についてご一緒に考えたいと思います。				
授業計画	<p>第1回 9/22 オリエンテーション講義「現代社会と負債膨張」</p> <p>第2回 9/29 貨幣論(1)「銀行券と貨幣」—通貨の製造企画と発行管理</p> <p>第3回 10/6 貨幣論(2)「現金の流通構造」—還流システムと裾野産業</p> <p>第4回 10/13 貨幣論(3)「キャッシュレス」—仮想通貨と決済システム</p> <p>第5回 10/27 金融構造論(1)「民間金融」—銀行発達史と銀行経営の課題</p> <p>第6回 11/10 金融構造論(2)「中央銀行」—機能と業務内容、国際比較</p> <p>第7回 11/17 金融構造論(3)「金融市場」—金融政策と財政政策</p> <p>第8回 11/24 経済構造論(1)「日本経済」—少子高齢化と所得格差</p> <p>第9回 12/1 経済構造論(2)「地方経済」—中央依存と地域間格差</p> <p>第10回 12/8 経済構造論(3)「世界経済」—景気循環と保護主義</p> <p>第11回 12/15 国際金融論(1)「国際協調」—国際機関とサミット協議</p> <p>第12回 12/22 国際金融論(2)「開発援助」—途上国支援と植民地主義</p> <p>第13回 1/12 国際金融論(3)「マネーロンダリング」—地下金融と地政学</p> <p>第14回 1/19 総括講義「グローバル化・パラドクスと負債膨張」</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	講義用に作成したパワーポイントを使用します(教科書の指定はありません)。				
上記教科書以外の参考図書	講義の理解に参考となる専門書を、必要に応じて紹介します(購入は不要です)。				
その他(HP等)					

科目コード	OG330	科目名	最後まで自分らしく	科目群	第3群
担当者	小谷 みどり (コタニ ミドリ)				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・5時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考		授業支援システム	立教時間		
授業の目標	生ある者（物）の宿命である「死」を医学、民俗学、哲学、社会学、経済学など多角的に俯瞰することで、「残された時間をどう生きるか」を改めて考えるきっかけとしていただきたい。				
授業の内容	オムニバス形式で毎回異なるテーマを取り上げ、授業を進める。死の概念、終末医療、葬送など、死の現状と問題について横断的に学習する。 正解がないテーマゆえ、さまざまな考え方があることを知ったうえで、自分はどうしたいかを考えていただける工夫をしたい。				
授業計画	<p>第1回 9/22 多死社会・死を取り巻く社会の状況</p> <p>第2回 9/29 死とは何か（死の基準）</p> <p>第3回 10/6 死にまつわるタブーや因習の成立</p> <p>第4回 10/13 現代人の死生観</p> <p>第5回 10/27 尊厳死と安楽死</p> <p>第6回 11/10 最後まで生きるとは</p> <p>第7回 11/17 現代社会におけるお墓の問題</p> <p>第8回 11/24 お墓の歴史とゆくえ</p> <p>第9回 12/1 環境問題としてのお墓と世界の動向</p> <p>第10回 12/8 お葬式 宗教的、歴史的考察</p> <p>第11回 12/15 お葬式 経済的、社会的考察</p> <p>第12回 12/22 弔われない死者と無縁社会</p> <p>第13回 1/12 相続</p> <p>第14回 1/19 あなたの死後を誰にどう託すか</p>				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	小谷みどり、2017、『「ひとり死」時代のお葬式とお墓』、岩波書店。				
その他（HP等）					